

【目次】

1. 2022 年 8 月 1 日、日本労働会館にて「友愛会創立を記念する会」を開催。
2. 「友愛会創立を記念する会」が記念講演会「日本労働運動の110年～友愛会から連合へ～」(講師:友愛労働歴史館・副館長である間宮悠紀雄氏)を開催。
3. 友愛会創立 110 周年を 2022 年 8 月 1 日に迎える。

1.2022 年 8 月 1 日、日本労働会館にて「友愛会創立を記念する会」を開催。

「友愛会創立を記念する会」(高木 剛会長。労働組合14組織、一般財団法人日本労働会館、株式会社友愛会館、労働運動関係者で構成)は、8月1日の10時半、日本労働会館で記念式典と記念講演会を開催しました。74名の参加者を集め、式典では、この1年の物故者の紹介と黙祷をささげ、主催者を代表して高木会長の挨拶の後、連合・芳野友子会長、民社協会・小林正夫代表、政研フォーラム・谷藤悦史理事長のご来賓より挨拶を受けました。

友愛会は110年前の1912(大正元)年8月1日、鈴木文治がユニテリアン教会・惟一館(現・友愛会館)で結成した中央労働団体で、その後、総同盟(戦前)へと発展。戦後、総同盟として再建され、同盟を経て現在の連合(日本労働組合総連合会、芳野友子会長)へと発展しています。

「友愛会創立を記念する会」は、この日本労働運動の出発点、そして民主的労働運動の源流とも言うべき友愛会創立の意義を顕彰し、そのメッセージを語り継ぐための会。会員相互の親睦と労働運動の発展に資するため毎年8月1日、連合の後援を受け、講演会と記念パーティーを開催しています。今年は、2年ぶりの開催であるものの、コロナ禍ということもあり感染予防に配慮して、縮小型の開催とし、記念パーティーは中止としました。総員74名の参加者は久しぶりの再会を喜んでいる様子でした。

2.「友愛会創立を記念する会」が記念講演会「日本労働運動の110年～友愛会から連合へ～」を開催！

友愛会創立を記念する会は、記念講演として、講師に友愛労働歴史館の副館長である間宮悠紀雄氏を招き、「日本労働運動の110年～友愛会から連合へ～」をテーマに講演を行いました。

福澤諭吉は、ユニテリアンを支え、惟一館建設を助けたことにより、今日「友愛会誕生の切っ掛けを作った人」とされています。福澤の「独立自尊」とユニテリアンの「自己信頼」は、友愛会基本理念である人格の尊重、自由主義(リベラリズム)と通底。また、渋沢栄一は「日本資本主義の父」とされますが、初期の友愛会と鈴木文治を支えたゆかりの人でもあります。当時の経営者としては珍しく、労働者も経営者・資本家も「人格において対等」と説いた。

まもなく戦時体制を目指す政府は、労働組合の解散、産報への参加圧力を高め、総同盟は労働組合の自主性を掲げ、産報への合流を拒否していましたが、1940年自主解散に追い込まれ、戦前期労働運動は終焉。

戦後まもなく、1946年総同盟、産別会議の結成。1950年民主的労働運動を目指し、総評が結成。しかし結成後わずか半年で左旋回。容共反米の組織となる。1954年全労(全日本労働組合会議)の誕生。1956年近江絹糸の人権闘争、日鋼室蘭争議、1960年三井三池争議を闘った。これらを経て、1964年全労から同盟へ発展。これ以降、総評・同盟・中立労連・新産別が競合する労働4団体時代がスタート。1989年11月連合が結成。

友愛会創立、あれから110年の長きにわたり、戦前・戦後の幾多もの困難を乗り越えて、今日に至る歴史と友愛会の持つその精神を伝承し、歴史を語ってもらいました。

3. 友愛会創立110周年を2022年8月1日に迎えました。

友愛会は創立110周年を2022年8月1日に迎えました。友愛労働歴史館を運営するのは、友愛会系労働組合が1931年(昭和6年)に設立した(一財)日本労働会館です。

友愛労働歴史館は2005年10月25日、友愛会館内に仮オープンし、①社会運動関連資料の収集・保管、調査・研究、②展示会活動(常設展・特別展)、③公開講演会の開催、④情報発信などに取り組んできました。

しかし、この数年に及ぶコロナ禍においては、友愛労働歴史館の縮小工事が決定し、活動に制約を受けながら、資料の収集、情報発信(メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発行)などを行っています。

現在の友愛労働歴史館は2012年8月1日、友愛会創立100周年を記念して建設された友愛会館(2012年春竣工)の中に正式オープンしました。友愛会館の前身は戦前の日本労働会館です。さらにその前身は1894(明治27)年に竣工した米国ユニテリアン協会の惟一館で、設計者はニコライ堂、三菱一号館美術館、岩崎邸などで知られるジョサイア・コンドルですが、1947(昭和20)年5月の東京・山の手大空襲で消失しています。惟一館は「自由・正義・雍穆」を掲げ、「人間の尊厳、進歩と発達」をめざす自由基督教の拠点として建設されました。

後に安部磯雄や鈴木文治らにより社会民主党(日本最初の社会主義政党)の結党準備が行われ、また友愛会が創立されたことにより「日本社会運動の中心」となりました。友愛会・総同盟は1928(昭和3)年に惟一館を買収し、日本労働会館としますが、この時、安部磯雄・賀川豊彦・鈴木文治・新渡戸稲造・吉野作造は「惟一館が日本の社会運動の中心となって欲しい」との思いを込め、「日本労働会館建設後援会」を組織し、その建設を支えました。

当歴史館は以上の経緯から、①友愛会・総同盟から同盟・連合までの労働運動、②戦前の社会民主党・社会民衆党から戦後の日本社会党・民社党までの政党運動、③ユニテリアンゆかりの社会運動に関する資料収集などを行っています。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL050-3473-5325

Eメール yuairedokishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairedokishikan.com>

惟一館から128年、友愛会から110年